

会報

遠藤章博士顕彰会

発行責任者
遠藤章博士顕彰会
会長 佐々田亨三
☎0184-72-2045

遠藤章博士顕彰会に今年も多大なご支援ご協力を頂きまして心から感謝申し上げます。今年もコロナ禍の状況が引き続き、更に悪化の様相を呈しております。皆様のご理解を頂いて、今年も事務局会議、事務局拡大会議等で検討を重ね、理事会で決定承認を頂き執行して参りました。

に整理・工夫して展示し、また、東山先生は専門の血液内科の具体的な診療・治療を通して、遠藤章博士の発見のことが出来ました。講演に当たっては、「検温・消毒・マスク着用・三密排除」等々コロナ対策に万全を期し、50名先着順を守らせて頂きました。10月8日、カダレを会場に、当顕彰会理事で由利本荘市の教育委員も務められている中央線診療所所長桑山明久氏による「スタチンが変えた医療」

料室」に市長、教育長を始め市の関係者と顕彰会関係者が集い、新聞・テレビ等マスコミ関係者の取材を受けながら、ストックホルムからの中継を視聴しました。この吉報は、世界中がコロナ禍で苦難にあえいでいる中だからこそ、創薬の高い見識と粘り強い研究でなし得た博士への注目が飛躍的に高まり、必ずや実現するものと確信しているところで

遠藤章博士の偉業に学ぶ

講演会「スタチンが変えた医療」中央線診療所所長桑山明久氏

今年も依然としてコロナ禍の厳しい状況下でしたが、徐々に経済活動・人的交流の進む中、顕彰会としても懸案であった講演会を開催することが出来ました。講演に当たっては、「検温・消毒・マスク着用・三密排除」等々コロナ対策に万全を期し、50名先着順を守らせて頂きました。10月8日、カダレを会場に、当顕彰会理事で由利本荘市の教育委員も務められている中央線診療所所長桑山明久氏による「スタチンが変えた医療」



50人が聴講した講演会

による脂質異常症・心筋梗塞を強力に抑制する治療薬によって医療業界が如何に発展したか、そしてスタチンが基になって、他の治療薬の創出も生み出されていることを力説されました。先生は中学時代にコレステロールを知って以来、時として注目していたものの、スタチンを血の滲むような努力をして発見し、「血中コレステロール値」を下げ、多くの世界の人命を救っている遠藤博士の業績を讃えました。特に、コレステロー



講演会講師の桑山明久氏

係から、データや資料に基づいて分かり易く、また、生活習慣病との関わりなどユーモアを交えてお話を頂きました。また、先生は日本内科学会100年記念で、日本人の貢献者の中に遠藤章博士も含まれていることを紹介しつつ、同時に熱を込められて、「ここに、遠藤章博士とアメリカのマイケル・ブラウン、ジョセフ・ゴールドスタインの3人が並んでいる写真がある。アメリカの2人はノーベル賞を受賞している、スタチンを発見した遠藤博士との関わりで功績を挙げて受賞したのに、遠藤博士が未だ受賞できないのは悔しくて、残念でならない」と、私共顕彰会員全員の気持ちを代弁されるかのように語ってくれました。

東由利中生に遠藤顧問が講演

由利本荘市立東由利中学校の佐藤隆校長よりご依頼があり、令和4年7月11日、生徒の皆さんに、私の両親や祖父母から聞いていた遠藤章博士の学生時代のお話を中心にさせて頂いていただきました。



東由利中生に講演する遠藤顧問

に立つような事をしたい」との思いで研究を続けた事などをお話させて頂きました。生徒の皆さんは博士の生き方や研究に対する思いを上手く伝える事が出来たかどうかは自信がありませんが、皆さん真剣な眼差しで聞いて下さいました。

後には佐藤校長から皆さんの感想文を頂きました。あきらめず努力を続けた事。自分の利益ではなく誰かの為に尽くす事。今でもスタチンが世界中で使われている事に驚いた。そして郷土の先輩である博士を誇りに

思っています。等々の嬉しいご意見をたくさんいただきました。今回のお話が東由利中の皆さんに、進路や人生を考える時に少しでも参考になっていただければと思っております。また、博士の郷土の若人に対する思いの一助になれば幸いです。

結びに今回の講演を企画、ご協力いただいた顕彰会副会長でもある学校運営協議会会長の小松幸円様、佐藤隆校長、教職員の皆様にお礼を申し上げます。そして、輝かしい未来ある東由利中の皆さんの「活躍」に期待申し上げます。

(文・遠藤正悦顧問)

質問も二人から受けられ、「高齢になって、心筋梗塞、高血圧症、糖尿病等の合併症が進んでいる場合、スタチンの服用を継続することに」と、に關しては、継続することは基本的には大切な一方、高齢になると病状の進行等も含め、服用回数の不確かさ、血圧も測定時間・間隔によって差が出てくるのは当然ですので、見極め続けて対処していくことが大切と、丁寧に説明されました。「高血圧の状況を気軽に下げたいとの願いから、最近、サプリメントが宣伝されているが」とのことについては、安全性も含めて、「どれだけの期間をかけて治療・臨床のデータを分析して医療の有効性を示されているのかは、当事者である会社の宣伝が中心であるので」、とお答え頂くなど、素晴らしい講演会を拝聴することが出来ました。心から感謝と御礼を申し上げます。

「質問も二人から受けられ、高齢になって、心筋梗塞、高血圧症、糖尿病等の合併症が進んでいる場合、スタチンの服用を継続することに」と、に關しては、継続することは基本的には大切な一方、高齢になると病状の進行等も含め、服用回数の不確かさ、血圧も測定時間・間隔によって差が出てくるのは当然ですので、見極め続けて対処していくことが大切と、丁寧に説明されました。「高血圧の状況を気軽に下げたいとの願いから、最近、サプリメントが宣伝されているが」とのことについては、安全性も含めて、「どれだけの期間をかけて治療・臨床のデータを分析して医療の有効性を示されているのかは、当事者である会社の宣伝が中心であるので」、とお答え頂くなど、素晴らしい講演会を拝聴することが出来ました。心から感謝と御礼を申し上げます。

「質問も二人から受けられ、高齢になって、心筋梗塞、高血圧症、糖尿病等の合併症が進んでいる場合、スタチンの服用を継続することに」と、に關しては、継続することは基本的には大切な一方、高齢になると病状の進行等も含め、服用回数の不確かさ、血圧も測定時間・間隔によって差が出てくるのは当然ですので、見極め続けて対処していくことが大切と、丁寧に説明されました。「高血圧の状況を気軽に下げたいとの願いから、最近、サプリメントが宣伝されているが」とのことについては、安全性も含めて、「どれだけの期間をかけて治療・臨床のデータを分析して医療の有効性を示されているのかは、当事者である会社の宣伝が中心であるので」、とお答え頂くなど、素晴らしい講演会を拝聴することが出来ました。心から感謝と御礼を申し上げます。

「質問も二人から受けられ、高齢になって、心筋梗塞、高血圧症、糖尿病等の合併症が進んでいる場合、スタチンの服用を継続することに」と、に關しては、継続することは基本的には大切な一方、高齢になると病状の進行等も含め、服用回数の不確かさ、血圧も測定時間・間隔によって差が出てくるのは当然ですので、見極め続けて対処していくことが大切と、丁寧に説明されました。「高血圧の状況を気軽に下げたいとの願いから、最近、サプリメントが宣伝されているが」とのことについては、安全性も含めて、「どれだけの期間をかけて治療・臨床のデータを分析して医療の有効性を示されているのかは、当事者である会社の宣伝が中心であるので」、とお答え頂くなど、素晴らしい講演会を拝聴することが出来ました。心から感謝と御礼を申し上げます。

「質問も二人から受けられ、高齢になって、心筋梗塞、高血圧症、糖尿病等の合併症が進んでいる場合、スタチンの服用を継続することに」と、に關しては、継続することは基本的には大切な一方、高齢になると病状の進行等も含め、服用回数の不確かさ、血圧も測定時間・間隔によって差が出てくるのは当然ですので、見極め続けて対処していくことが大切と、丁寧に説明されました。「高血圧の状況を気軽に下げたいとの願いから、最近、サプリメントが宣伝されているが」とのことについては、安全性も含めて、「どれだけの期間をかけて治療・臨床のデータを分析して医療の有効性を示されているのかは、当事者である会社の宣伝が中心であるので」、とお答え頂くなど、素晴らしい講演会を拝聴することが出来ました。心から感謝と御礼を申し上げます。

「質問も二人から受けられ、高齢になって、心筋梗塞、高血圧症、糖尿病等の合併症が進んでいる場合、スタチンの服用を継続することに」と、に關しては、継続することは基本的には大切な一方、高齢になると病状の進行等も含め、服用回数の不確かさ、血圧も測定時間・間隔によって差が出てくるのは当然ですので、見極め続けて対処していくことが大切と、丁寧に説明されました。「高血圧の状況を気軽に下げたいとの願いから、最近、サプリメントが宣伝されているが」とのことについては、安全性も含めて、「どれだけの期間をかけて治療・臨床のデータを分析して医療の有効性を示されているのかは、当事者である会社の宣伝が中心であるので」、とお答え頂くなど、素晴らしい講演会を拝聴することが出来ました。心から感謝と御礼を申し上げます。

顕彰会会務報告

(令和4年1月～12月)

- 6月19日 事務局拡大会議
- 7月9日 事務局会議
- 7月11日 顕彰会事業(講演会)「遠藤章博士の学生時代」
- 7月16日 理事会
- 7月中旬 ホームページ公開
- 7月29日 事務局拡大会議
- 4年度総会資料の発送
- 7月31日 総会(中止)
- 9月5日 事務局拡大会議
- 10月3日、5日 遠藤章博士の業績を讃える会(ノーベル賞発表に臨む会)
- 10月8日 顕彰会事業(講演会)「スタチンが変えた医療」
- 11月16日 事務局拡大会議
- 12月15日 会報第3号発行
- 12月15日 パンフレット発行

◆会費・寄付金等
(令和4年11月末現在)

- ・会費 352,000円
- ・寄付金 18,000円

今年度会費をお忘れの方は、令和5年1月31日までにお納めくださるようお願いいたします。新会員も募集しております。お近くで顕彰会活動に賛同していただける方がおられましたら、お誘いください。

講演会の感想

東由利に遠藤章博士のようになすごい人がいることを誇りに思っています。スタチンは日本国内だけではなく、世界でも使われているので、遠藤章博士の、たとえばきのこに興味があったと言っていたので、興味はとて大変なのだと思ひ学びました。

東由利に遠藤章博士のようになすごい人がいることを誇りに思っています。スタチンは日本国内だけではなく、世界でも使われているので、遠藤章博士の、たとえばきのこに興味があったと言っていたので、興味はとて大変なのだと思ひ学びました。

東由利に遠藤章博士のようになすごい人がいることを誇りに思っています。スタチンは日本国内だけではなく、世界でも使われているので、遠藤章博士の、たとえばきのこに興味があったと言っていたので、興味はとて大変なのだと思ひ学びました。

東由利に遠藤章博士のようになすごい人がいることを誇りに思っています。スタチンは日本国内だけではなく、世界でも使われているので、遠藤章博士の、たとえばきのこに興味があったと言っていたので、興味はとて大変なのだと思ひ学びました。

顕彰碑管理部会から 草刈・看板設置・ 冬囲い作業の報告



顕彰碑管理部会会員による草刈りの様子(左写真)と雪囲いの様子(右写真)



顕彰碑が建つ台山地区には、昨シーズンも2メートル近い雪が積まりましたが、4月初旬には若草も勢よく芽生え、冬囲いのブルーシートも早々に撤去でき、記念碑やモニメントが優々と姿を表しました。

顕彰碑管理部会のメンバーは、雪囲いの撤去と同時に周囲や記念碑等の清掃に汗し、また東由利総合支所の教育学習課の職員には、国道107号交差点付近から顕彰碑までの案内板も設置していただきました。

関係者一同、見学に訪れる方々に少しでも気持ちよく見て頂きたいとの思いで作業を行ったところです。

7月26日には草刈り作業を行い、メンバー全員で記念写真を撮りました。

また、東由利中学校の生徒さんたちも清掃活動に携わってくれました。別記で紹介しました。ありがとうございました。お礼を申し上げます。

今年の春・夏・秋もあつという間に過ぎ去り、11月25日には今シーズンの冬囲いを行ったことをご報告いたします。(顕彰碑管理部会・長谷山博昭会長)

ノーベル賞候補「世界の遠藤章博士展」開催



ノーベル賞の発表時期に合わせ、博士の生誕地である由利本荘市東由利のショッピングプラザ「ふれっそ」で、「世界の遠藤章博士展」が9月23日～10月11日までの期間で開催されました。協同組合東由利ショッピングプラザ(小松正二理事長)の主催で、郷土の先覚者である遠藤章博士の業績を讃え、ノーベル賞受賞を祈念した展示会となりました。期間中は、秋の行楽期間と重なり、買い物客の他、道の駅東由利に立ち寄る行楽客などが展示会場を訪れました。

東由利中学生今年も 記念碑清掃活動実施



東由利中学校では、東由利を代表する偉人である遠藤章博士の功績をたたえ、その意志を引き継ぎ、今年も5月から顕彰碑の清掃活動を行いました。全校を5つのグループに分け、10月まで毎月1回、輪番制で行いました。この活動を通して、遠藤章博士のように「夢を持ち、その夢に向かってひたすら努力する」生徒に育ててほしいと願っています。

遠藤章博士の業績を讃え ノーベル賞発表に臨む会

毎年ノーベル賞の発表は10月、授賞式は12月に行われます。今年も遠藤章博士のノーベル賞受賞に大きな期待がもたれました。

顕彰会では、ノーベル賞医学・生理学賞の10月3日と、化学賞の10月5日に、それぞれの発表時刻に市文化交流館カダーレの「郷土の先人資料室」で、ノーベル賞発表に注目しました。

当日は、顕彰会の佐々田会長、小松、長谷山両副会長など役員5名と、顕彰会名誉会長である湊由利本荘市長や、秋山由利本荘市教育長などの市幹部、報道各社から多くの取材陣も詰めかけました。



市文化交流館カダーレの「郷土の先人資料室」で開催したノーベル賞の発表に臨む会(10月3日・5日)

遠藤章博士顕彰会 ホームページ開設

昨年年度中の開設を計画していた本顕彰会のホームページでしたが、都合により遅れ、7月中旬ごろに公開しました。

費用を抑えるためアマチュアの方に制作を依頼したのですが、斬新なデザインで、シンプルながらも情報が盛り尽くされており、親しみやすい内容となっています。トップページには顕彰碑の除幕式、生家のある法内集落、春爛漫八重桜の画像を使用しました。

内容は、「遠藤博士の歩み」から生い立ちや留学などを「偉業」として掲載、「年譜」に略歴や受賞歴を掲載しました。「遠藤章博士顕彰会」のページでは、設立の趣旨、組織を掲載、「会報」には、昨年までに発行した1号と2号を掲載しました。また、「関連施設」として昨年5月に除幕した顕彰碑と八塩生涯学習センターの「遠藤章博士顕彰室」を掲載しました。



顕彰会ホームページのトップページ

「遠藤章博士顕彰会」のページでは、設立の趣旨、組織を掲載、「会報」には、昨年までに発行した1号と2号を掲載しました。また、「関連施設」として昨年5月に除幕した顕彰碑と八塩生涯学習センターの「遠藤章博士顕彰室」を掲載しました。



顕彰会のパンフレット

パンフレットも作製

遠藤章博士顕彰会のパンフレット(A4版三つ折り)を作りました。道の駅や公共施設などに配置予定です。活用下さい。

編集室から

▼佐々田会長は、6月3日秋田大学教育文化学部附属中学校での特別講演、秋田の「探究型授業」を深化・発展させる「知の探検者」の中で、遠藤章博士から、研究仮説・問いを繰り返して課題とし、研究方法・研究内容を深化・発展させる研究姿勢、「定説・科学的根拠等に対する問う力」を学ぶ必要があることを力説しました。秋田県は全国学力・学習状況調査で再度実施された平成19年度以来、常に全国の上位・トップ級を維持しています。それは秋田の「探究型授業」による、どの分析がなされ、今、文部科学省では全国に推奨しております。そこで秋田の「探究型授業」を一層深化・発展させるためには、秋田県の先人や現在活躍している先輩の業績に学び、内容的に、「課題解決への価値付けと定説・科学的根拠に対する問う力」を身に付けさせることの大切さを強調しました。

▼佐々田会長が11月20日、遠藤章博士と電話で直接交信しました。顕彰会運営や顕彰碑についての感謝と、御礼が改めてございました。これから、厳しい寒さが訪れることへの心配もしてくれました。佐々田会長からは、顕彰碑は東由利中生が清掃してくれること、春までシートで覆い保護すること、今年、秋田県から新米サキホコレが売り出され、佐竹知事と壇蜜さんが宣伝していること等々お話しされました。遠藤博士が来年こそは郷里に来て、郷里の光景や顕彰碑等を見たいという思いが伝わってきました。

機関紙編集委員会
(文責・小野)